

6. 生活単元学習 (校外体験学習を含む)

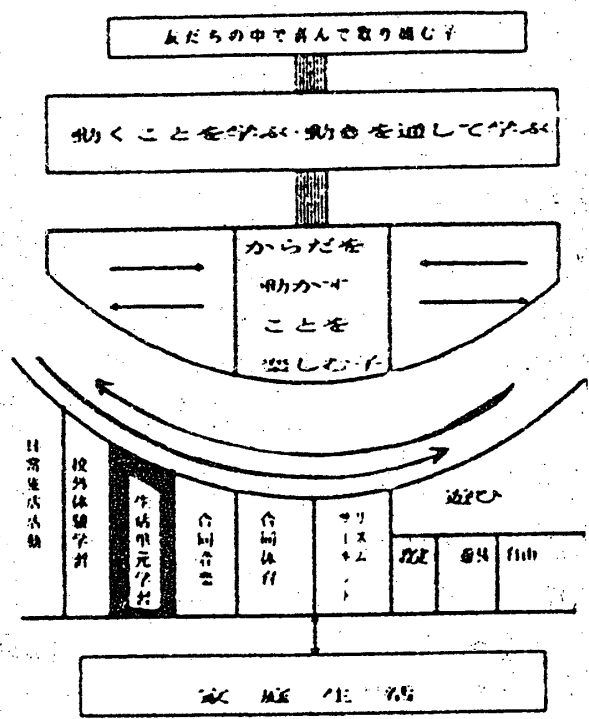
(1) からだづくりに生活単元学習が果たす役割

生活単元学習は小学部の教育課程の中心となる指導形態であり、下図に示すからだづくりをめざした構造図でも分かるように、からだづくりに直接的、間接的に重要な役割をはたしている

①. 直接からだを育てる場である。

生活単元学習は、障害のある子ども達が、具体的な生活を通して、意欲的に、やる気を持って学習に取り組むことをめざした指導形態であり、その内容も発達段階が低ければ低いほど、身体を使った、動きの多い遊びが中心になって展開される。

「心身に障害を持つ子供や幼少児に対する指導は、感覚運動が中心となるもので良いと考えるが、大切な点は、それが単なる訓練的なアプローチでは子供を変えることはあまり期待できない。楽しく遊ばせながら育てていくこと、・・・(注1)」と、小林氏がムーブメントについて述べておられるが、この考え方は、生活単元学習の考え方と基本的に一致している。うんどう会、山のぼり遠足、ゲーム大会等、子供たちは生活単元学習に意欲的に取り組みながら、からだを動かすことを楽しみ、からだづくりをしている。



②. 意欲、エネルギーとして、間接的にからだを育てる力となっている。

小学部のからだづくりで、直接的・中心的な役割を果たしている「音楽、体育」の学習内容は、生活単元学習や季節感と密接なつながりで構成されている。生活単元学習での具体経験、感動、楽しかった気持ちが、音楽や体育での学習意欲や動きを引き出すエネルギーとして果たしている役割は大きい。

③. 育った力を総合的に活用したり評価する場である。

からだづくりは、単に、体力や運動技能の向上をめざしたものではなく、そのからだは、少しでも不自由さを克服して、自分の生活を切り開いていく、生きて働く力とならなければならない。

生活単元学習は、日常生活の場と並んで、育った力を生きて働く力として、総

合的に活用する場である。と同時に、ムーブメント教育の達成課題の一つである心理的諸機能の向上（言語、創造性、問題解決能力、社会性、情緒面等）は、生活単元学習や日常生活の場で生かされ、その力が評価されるものである。

(2) 生活単元学習「どんぐりやまえんそく」を中心にした実践

11月～12月に実践した生活単元学習「どんぐりやまえんそく」は、生活単元学習を中心としながらも、体育、音楽と密接につながりを持ちながら展開し、からだづくりへの組み立ての工夫した単元である。右の構造図は、その概略を示すものであり、まる数字は、前ページのまる数字と対応している。

学習内容としては、本校の段階別教育内容表から子供の実態に合うものを取り出して配列すると同時に、MEPAのアセスメントが繰り返し学習できるように配当している。

この単元でこども達は、からだを動かすことを楽しみながら、とても意欲的に学習すると同時に、体育、音楽でも「どんぐり山」の思い出や生活単元学習での取り組みを背景に、活発な学習を展開した。

(3) 校外体験学習について

具体的な生活経験、特に自然とのふれあいの少ない小学部の児童に、できるだけ色々な生活経験をさせ、感覚・運動機能は勿論、感性、情感、喜びといった情動的な面からもからだを育てていこうと、小学部が本年度から取り組んでいる学習である。

体験そのものを目的としているが、生活単元学習と関連させたり、生活単元学習に発展して行ったもの等がある。

